

家庭科学習指導案

令和5年11月10日 5校時
5年2組 指導者 田部井政規
場所 5年2組教室

【授業の視点】

購入に必要な情報を適切に収集・整理するために、筆箱を購入する場面を想定し「おためしショッピング」をする活動を取り入れたことは有効であったか。

I 題材名 生活を支えるお金と物

II 考察

1 学習指導要領上の位置付け

内容『C 消費生活・環境』

(1) 物や金銭の使い方と買物

ア (ア) 買物の仕組みや消費者の役割が分かり、物や金銭の大切さと計画的な使い方について理解すること。

(イ) 身近な物の選び方、買い方を理解し、購入するために必要な情報の収集・整理が適切にできること

イ 購入に必要な情報を活用し、身近な物の選び方、買い方を考え、工夫すること。

2 題材について

本題材では、身近な消費生活について扱い、物や金銭の大切さと計画的な使い方を理解し、物の選び方、買い方を工夫して実践する学習を設定した。その価値は以下の通りである。

ア (知識及び技能)

・生活を支える物や金銭の大切さがわかり、計画的な使い方について理解することができる。

・物の選び方、買い方を理解し、購入するために必要な情報の収集・整理が適切にできる。

イ (思考力、判断力、表現力等)

・身近な消費生活について課題に気付くことができる。

・身近な物の選び方、買い方について考え、工夫することができる。

ウ (学びに向かう力、人間性等)

・物や金銭の使い方と買物について主体的に工夫しようとしている。

この学習は、今後、第6学年「持続可能な社会を生きる」の学習へ発展する。

3 本題材に関わる児童の実態

(1) これまでの学習

児童は、1学期に「整理・整とんで快適に」の題材で、空き箱や空き容器を使って整理・整頓の仕方を学習した。その際、身の回りの物を整理することで持ち物が確認でき、同じ物を買ってしまう前に気付くことができることを学習してきた。

(2) 本題材に関わる実態

【知識及び技能】

事前調査の結果から、普段の生活の中で、9割の児童が「自分で貯めたお金または小遣いを使って買物をした」という経験があり、買物に関する大まかな知識をもっているようである。欲しい物があっても、すぐに買いに行くのではなく、ほとんどの児童が「大人に相談するなどして買うまでに少し考える」と回答した。

【思考力、判断力、表現力等】

事前調査の「家の人がどのようなことにお金をつかっているのか」という質問に8割ほどの児童が「(大体)知っている」と回答している。家族の金銭の使い方を自分なりに理解し、計画的な使い方を意識していると思われる。また、自分で買物をした経験から「買物をしてよかった」と実感しているが、4割ほどの児童には買物の失敗経験もあることから、買物の目的や選び方の大切さに気付いている児童も多いと思われる。本題材では、更に工夫した買物に気付いていけるとよいと考える。

【学びに向かう力、人間性等】

事前調査によると、児童は家族と一緒に買物に行く機会や、自分でも買物をする経験が多いようである。それぞれに欲しい物もあり、買物への関心が高く、買物することのよさや必要性を感じている。本題材を学習することで、日常生活において物の選び方や買い方を考え、工夫してよりよい買物が実践できるようになってほしいと考える。また、8割以上の児童が「買物をするときはエコバッグを持っていく」と答え、7割以上の児童が「無駄な買物はしないようにしている」と答えている。児童の環境への関心は高いと思われることから、持続可能な社会の構築等の視点から自分の生活が身近な環境に与える影響について本題材においても主体的に考えていくことが期待できると考える。

III 目 標

- (1) 物や金銭の使い方と買物について理解し、身近な物を選んで購入するために必要な情報の収集・整理ができる。
- (2) 物や金銭の使い方と買物について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けることができる。
- (3) 家族の一員として、生活をよりよくしようと、物や金銭の使い方と買物について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとする。

IV 題材の評価規準

評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 買物の仕組みや消費者の役割が分かり物や金銭の大切さと計画的な使い方について理解している。	① 物や金銭の使い方と買物について問題を見いだして課題を設定している。	① 家族の一員として、生活をよりよくしようと、物や金銭の使い方と買物について、課題の解決に向

<p>② 身近な物の選び方、買い方を理解し、購入するために必要な情報の収集・整理が適切にできる。</p>	<p>② 購入に必要な情報を活用し、身近な物の選び方、買い方について考え、工夫している。</p> <p>③ 身近な物の選び方、買い方について実践を評価したり、改善したりしている。</p> <p>④ 身近な物の選び方、買い方について考えたことを表現している。</p>	<p>けて主体的に取り組んでいる。</p> <p>② 物や金銭の使い方と買物について、課題解決に向けた活動を振り返って改善しようとしている。</p> <p>③ 物や金銭の使い方と買物について工夫し、実践しようとしている。</p>
--	--	--

V 指導方針

「知識及び技能」

- 収入には限りがあることや支出は多岐にわたることなどに気付き、物や金銭の大切さを理解するために、多様な生活場면을振り返る活動を設定する。
- 買物の仕組みを理解するために、買物場面におけるロールプレイ（消費者と売り手）を取り入れる。
- 購入するために必要な情報の収集・整理を適切にできるようにするために、身近な物を購入する場面を想定し、具体的に考える模擬購入の活動を設定する。

「思考力、判断力、表現力等」

- 児童の興味・関心を授業に生かし、題材を見通した課題づくりをするために、本題材の導入において、生活を支える物や金銭について一人一人が疑問を出し合ったり、買物の失敗体験を話し合ったりする活動を設定する。
- 持続可能な社会の構築等の視点から物の選び方、買い方を考え、工夫できるようにするために、購入前に「なぜ買いたいのか。」「本当に必要なのか。」と考えたり、購入後に適切に活用しているかどうか振り返ったりする活動を取り入れる。

「学びに向かう力、人間性等」

- 学んだことを家庭で主体的に実践するために、本題材で学習したことを生かしながら実際に物を購入する買物の計画を立てるようにする。
- 題材全体の学習を振り返り、これからの生活をよりよくしていこうとするために、「買物名人3か条」を考え、実践を評価したり、改善しようとしたりする時間を設定する。

VI 指導と評価の計画（全8時間計画、本時は6／8）

過程	時間	○ねらい めあて	☆振り返り (単位時間の終わりに目指す 児童の姿に基づく意識)	評価項目（評価方法）		
				知識・技能	思考・判断・ 表現	主体的に学習に 取り組む態度
つかむ	1	○自らの金銭の使い方や無駄のない生活の仕方について問題を見だし、題材の学習への見通しをもつことができる。	☆普段、いろいろなことにお金を使っていることがわかった。 ☆お金は大切な。 ☆これから買物の仕方について考えていきたい。		○思判表① (活動・記述)	・主体態① (発言・活動)

		<p>お金の使い方や買物について考え、学習の見通しをもとう</p> <p>買物名人になろう</p>				
追究する	2	<p>○買物の失敗経験について話し合うことを通して、消費者として物や金銭の計画的な使い方について理解する。</p> <p>買う前に考えることは何か考えよう</p>	<p>☆これからは買う前に、本当に買う必要があるのか考えよう。</p>	○知技①（活動・記述）		
	3	<p>○買物場面のロールプレイを通して、買物の仕組みについて理解することができる。</p> <p>買物の仕組みについて知ろう</p>	<p>☆「契約」がいつ成立するか分かった。</p> <p>☆お金の支払いにはいろいろな方法があるのだな。</p>	○知技①（活動）		
	4 5	<p>○これまでの買物で行ったことがある工夫を紹介し合うことを通して、買物の手順や身近な物の選び方、買い方について理解している。</p> <p>買物の手順について知ろう</p>	<p>☆今度は買物メモを作ろう。</p> <p>☆商品についているマークが何を表しているのか分かった。</p>	○知技②（活動・記述）		
	6 本時	<p>○筆箱を購入する場面を想定し「おためしショッピング」をすることを通して、購入に必要な情報を適切に収集・整理することができる。</p> <p>商品の情報を集めて「おためしショッピング」をしよう</p>	<p>☆最初は好みで選んだけれど、情報を集めたら考えが変わったよ。</p> <p>☆友達が考えた観点は私と違っていた。いろいろな観点があるのだな。</p>	○知技②（活動・記述）	・思判表③（発言・ワークシート）	

	7	○身近な物を実際に購入する場面を想定することを通して、学んだことを家庭で実践するための計画を立てることができる。 買物を計画しよう	☆家族に作ってあげるみそ汁の実を買うよ。賞味期限に気を付けようと思う。 ☆水筒を買う計画を立てたよ。友達のアドバイスが役に立ったな。		○思判表② (発言・ワークシート)	・主体態② (発言・ワークシート)
		家庭実践				
まとめ	8	○家での買物の実践を通して「買物名人3か条」を発表し、題材全体の学習を振り返ることができる。 「買物名人3か条」を発表し、学習をふり返ろう	☆上手な買物をするためにはどんなことが大切か分かった。 ☆買った物を大切に使いたい。		○思判表③ (発言・ワークシート) ○思判表④ (発言・買物名人3か条)	・主体態③ (発言・ワークシート)
評価テスト		学習内容の定着を確認する。		○知①② (ペーパーテスト)		

VII 本時の学習（本時は6/8）

1 ねらい

筆箱を購入する場面を想定し「おためしショッピング」をすることを通して、購入に必要な情報を適切に収集・整理することができる。

2 準備・資料

教師：教科書、ワークシート、タブレット、実物の筆箱、宣伝用ポップ（掲示用）
宣伝用チラシ（配布用）

児童：教科書、ノート

3 本時の展開

学習活動と子供の意識	時間	指導上の留意点・支援	評価項目
1 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。	7分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習活動への意欲を高めるために、前時の学習活動を振り返り、買物には手順があること、商品には品質や安全性などを示すマークや表示があることなどの想起を促す。 ・本時のめあてを明確につかむことができるように、筆箱を購入する場面を想定することを伝える。現在使用している筆箱の購入時を想起し、どのような理由で購入したかを発表し合うことで、学習への気持ちを高めるようにする。 	商品の情報を集めて「おためしショッピング」をしよう
2 「おためしショッピング」をする。 (1) 商品の情報を収集する。		<ul style="list-style-type: none"> ・目的に合った品質のよい物を購入するために、情報を収集・整理するよう伝える。その際、持続可能な社会の構築等の視点から、購入前に「なぜ買いたいのか。」「本当に必要なのか。」と考える 	

<p>(2)情報を比較・検討し、整理する。</p> <p>(3)意見を交換し合う。</p>	<p>33分</p>	<p>ことの必要性を伝え、本時は「筆箱を買う必要がある」という想定で活動を行うこととする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 商品としての筆箱は以下6つの実物を用意する。 <ul style="list-style-type: none"> ① マグネット開閉平型20%引き1200円 ② ゴム留め薄型透明450円 ③ ジップ開閉横型1300円 ④ ジップ開閉大容量透明1000円 ⑤ ジップ開閉映える1450円 ⑥ ジップ開閉縦型1500円 様々な観点から情報を収集することができるようにするため、値段や容量、店の人の話などを宣伝用チラシや宣伝用ポップなどとして提示する。 考えを整理できるように、自分の目的に合った観点に沿って集めた情報を比較、検討し、購入したい筆箱とその理由についてワークシートへ記入するよう伝える。 自分の考えを広げたり、深めたりするために、ペアで伝え合ったり、全体で共有したりするなど、意見を交換する活動を取り入れる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>評価項目 知技② 購入に必要な情報の収集・整理ができる。 (活動・記述)</p> </div>
<p>3 本時の振り返りをする。</p>	<p>5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの買物の目的に沿った観点は多様であることに気付くことができるようにする。